

ブラジル福岡県人会

中村 クリスチアネ 小百合

福岡教育大学教育学部

## 勉強のこと

日本に着いて後すぐ、大学で日本語プレテストを受けました。成績によって、受けたほうが良い授業を留学生担当教員からお知らせがあり、指導教員と話し合っ、受ける授業を決めました。

この一年間の一つの目標が日本語の上達で、読み、書き、コミュニケーション、聴解、総合、色々な日本語の授業に出ています。まず一つは、自分のレベルよりも簡単な本を、辞書を使わずに、楽しみながらたくさん読む授業です。要約や書評を書く練習もします。簡単な日本語をどんどん読むことで、知らないうちに少しずつ難しい文章も読めるようになり、少しでも自然な日本語が書けるようになってきていると思います。もう一つはアンケート調査、インタビュー活動、スピーチ、ロールプレイを通して話す力を育てる授業です。色々な聴解（ニュース、講義、会話、ドラマ等）に慣れ、自分に必要な情報を聞き取り、物事の一番大事なところをつかんでいく能力を養成しています。「大学生の聴解」はニュースを中心に、聞き取りの授業です。全体の内容を把握したり、一つ一つの言葉を書き取ったりすることで、総合的な聴解の力を身につけることができていると思います。「コミュニケーション」は日常生活や大学生活、職場など色々な場面を設定し、考えていること、伝えたいことを正しい表現を用いて、相手と上手く受け答えができるよう、コミュニケーションの技を学ぶ授業です。「日本語総合」では書き言葉と話し言葉の違いを確認したり、相手や場面に応じて表現を使い分ける練習をします。視聴覚情報を正確に理解し、適切な表現を使って説明する練習や、説明文と意見文の違いを明確にし、書き分ける練習もします。また、文体の書き分け、会話表現、様々な語彙や慣用表現など、日本語に関するすべての知識を総合的に駆使して、自分で小説を書く練習をします。

日本の教育、文化、社会をもっと深く知るため、他の授業も受けています。

「日本事情」では授業として学外に見学に出かけたり、日本の学生と話し合ったり、日本の文化や社会について知ると同時に、自分自身の文化や社会についても理解を深めることができます。「異文化交流の心理学」は日本の学生と留学生が合同で受ける授業で、毎回色々なテーマ（文化、考え方の違い）について小グループに分かれてディスカッションをします。「比較教育文化論」は日本の教育のバックボーンとしての文化的背景を、制度以外の側面から考えるこ

との授業です。さらに、日本の社会についての常識問題を解きながら知識を増やし、異文化ショックや異文化トラブルの先例を学び、母国についての記事を紹介することで、母国について説明するようにもなれます。「日本の教育制度」では、現代日本の概要、学校制度、教育行政制度、教科書、入学試験等の事例から学んでいきます。そして、日本において、どのような学術が海外から移入されてきたのか、その経緯を古代からの一般的な歴史事項の内容も含めながら歴史的に考察します。「ホームルーム」では、福岡教育大学の留学生全員で日常生活や研究について話し合うことができ、色々な国の文化のを知り、自分のことについても紹介をすることで、異文化交流とコミュニケーションには大事な時間だと思います。

大学の授業以外には、小学校、中学校に行ったり、教育に関する講義に参加したりしています。主に、道徳の授業の見学をしています。授業の内容、目的、形式、教育方法、大学の授業で学ぶ日本の教育制度を自分の目で見て、知識を深めることができます。学校の先生方や校長先生と話す機会もあり、大変勉強になっています。さらに、指導教員といつも様々なテーマについて話し合っ、研究の方向を教えていただき、本当に貴重な学習を受けています。

日本の学校における人格形成、道徳の教育方法を研究して、ブラジルの児童に対する教育プロジェクトを立案することを一つの目標にして、私はこの度日本に来ました。七ヶ月でこんなにたくさんの素晴らしいことを習うことができ、とても感謝しています。帰国までにはもっと研究に通じる勉強を頑張りたいと思います。

ブラジル福岡県人会  
浅野 レナン ゆうじ

九州大学大学院 経済学府

## 勉強のこと

福岡市に住んで7ヶ月経ちました、今月学校の後期の授業がもう始まりま  
した。

私の学校は九州大学です。九大はすごく有名で大きい大学と言われ、色々な面  
白いイベントに有力な社会人が参加し、様々な世界の国からの留学生もいる  
し、大きな多様性のコースを提供しており、私は九大で勉強することは本当に  
光栄と感じています。福岡市に九大は5キャンパスがあり、私は経済学府で、  
箱崎キャンパスにあります。すぐ伊都キャンパスに引っ越しするようです。  
箱崎キャンパスはちょっと古いのですが、今は住んでいる寮から近いので、  
私は自転車で通学しています。伊都キャンパスは新しく、一番主要な九大のキ  
ャンパスで、新しい考えや取り組みなどが伊都キャンパスで行われているの  
で、後期より、伊都で授業を受けています。

私の専門は経営で、九大では基本的に授業やセミナーのような学習活動が提供  
されています。経営の専門は広くて色々な分野と環境を利用できます。経営の  
中で私に一番興味がある分野は「アントレプレナー」ということです。この分  
野では基本的に起業やイノベーションや新規事業や零細企業の経営に関係があ  
ります。ブラジルでも色々なアントレプレナーについての仕事を経験してきま  
したので、日本式のアントレプレナーを学びたいです。

私の日本語能力はまだ日本語での授業のレベルに足りないので、英語での授業  
を受けていて、一所懸命毎日自分で日本語を勉強しています。さらに、日本語  
の能力試験の2級を12月4日に受けるので、九大の日本語のコースだけでは  
なく、こくさいひろばでの日本語の授業も受けています。日本語を勉強すれ  
ば、日本語での授業がもっとわかるし、色々な機会も利用できるのも、それは  
プライオリティーの1つです。

九大では外国人学生が多いので、外国人学生のための日本文化のコースがあり  
ます、それは「Japan in Today's World」というプログラムです。私の受け  
ているコースは「日本の文化的なパターン」や「日本とグローバル化」など  
についてです。同級生はアメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなどから  
来ており、すごく面白い議論ができるし、みんなが日本文化に興味があり、こ  
のコースは日本の色々なことを理解するためにすごく役に立っています。

経営とアントレプレナーの勉強としては、前期の授業の1つで毎週現代の業界  
の起業家がスピーチをされました。内容は実社会のケースや、毎週違う会社や

分野についてのもので、スピーチの後で議論があったので、すごく面白かったです。起業家の経験から日本の経営方法をたくさん学びました。

アントレプレナーについてのワークショップは「Start-up Weekend」と「Global Seminar」というものでした。「Start-up Weekend」には色々な分野からの九大学生が参加し、幾つかのグループに分かれ、新しいビジネスのアイデアを作り、最後にそれを紹介して、一番良いものは専門家グループに選ばれて、賞をもらいます。私のグループは優勝しなかったが、初めて日本でこんな実用的な学習活動で、グループでアイデアを作る展開は、すごく良い勉強でした。「Global Seminar」には、スウェーデンからの先生の発表で、内容はアントレプレナーと業界の新しい動向でした。内容も論議もすごく良かったので、これもいい勉強になりました。

他の面白い勉強経験は、授業の1つに毎週学生がそれぞれ自分に興味がある経済についての論文を授業で紹介して、私も、日本の友達が助けてくれたおかげで、日本語で紹介をすることができました。論文のテーマは「日本の私立大学の運営に対する政府の補助金の影響」でした。

今期に経営について受けている授業は「コーポレート・ファイナンス」と「経営の理論」です。それに、九州大学ビジネス・スクール、「QBS」という学部で「コーポレート・アントレプレナー」というコースも受けています。今はまだ後期の始まりなので、結果はあまりありませんが、今までの期間の授業は本当に面白いと思います。色々学んだことを帰国してから、必ず利用します。

ブラジル福岡県人会

清水 サラ 愛実

九州産業大学芸術学部

## 勉強のこと

日本へ来てもう8ヶ月経っています。このあいだ初めて指導教員と出会うキャンパス見学をした気がします。8か月間の期間中、ずっと先生方や同級生が優しくしてくれて感謝しております。

私が今勉強している九州産業大学の芸術学部は学生をものすごくサポートしてくださる感じがしました。インフラはやっぱり便利が良くて、生徒が安心して勉強や研究をできるように建てられた学校です。ギャラリー、図書館、食堂、パソコンルームや文房具屋も全部利用できます。芸術学部のビルで自分だけの研究室（アトリエ）を持って、そこでエスキースや作品を作成します。

私が一番勉強したかったのは日本の独特な技術と現代美術です。ブラジルの大学で勉強してきたのは西洋歴史や技術でした。日本式の技術を教えてくれる教師も少ないからインターネットや本で調べるしかなかったのです。指導教員にそれを伝えると、いろいろ授業を受けるように言ってくれました。

まずは日本画の美しさに感動しました。先生が例のために見せてくれた作品はとても素敵で授業中に泣きそうでした。日本画は、千数百年以来続いている絵画様式が基本となっており、その画材となるものも歴史に培われた伝統的な素材です。一般には紙や絹、木、漆喰などに、墨、岩絵具、胡粉、染料などの天然絵具を用い、膠(にかわ)を接着材として描く技法が用いられています。また、金などの金属材料(金箔など)を画材として効果的に取り入れています。日本画用材料の扱いはとても難しく、集中力や穏やかさが必要だと分かりました。

陶芸の授業ではろくろを利用して器を作ります。一番難しいのは土の上げ下げと芯を出すことです。手と指の力の問題より胴体の力のバランスを感じる事が大切だと分かりました。自分の存在は土に映すように陶芸は自己認識をできる見方を持っています。先生が言うには「失敗の数だけ自身の肥やしになる」、それを本質的に理解できました。何百回も繰り返したら少しずつ上手になってくるので、もっともっと失敗して成長していきたいです。

現代美術のインスタレーションの授業も受けました。インスタレーションというのはある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術です。先生が提案されたのは布の軍手を使って作品を作ることでした。日本へ来る前からよく私の作品に出てくるものは白いサンゴです。サンゴの体内には、直径 1/100 ミリくらいのとても小さな「褐虫藻」という植物プランクトンがたくさん生きており、活発に光合成をしています。その植物プランク

トンが死亡するとサンゴが白くなって、その「白さ」で全体的に死亡したことを示すのです。「死」が白く現れることに今まで気になっていました。それを考えながら白い布の軍手を使ってサンゴを作成しました。大学にある彫刻台に載せて展示しました。

二学期から版画の授業も受けて、そこで石版画（リトグラフ）をはじめました。リトグラフ（lithograph）は版画の一種で、平版画にあたるものです。水と油の反発作用を利用した版種で、製作プロセスは大きく「描画」「製版」「刷り」の3行程にわかれています。ブラジルの大学ではリトグラフをする機会がなかったので楽しみにしていました。インク、溶剤、水を使う順番は一つでも間違えれば失敗してしまうため集中しないといけません。先生がやっているのを見ると簡単そうと思ったのですが、実際にやってみるととても難しいプロセスでした。とくに色の重ねること。

毎日何かを学べる機会がある私は本当に恵まれていると思います、先生方に感謝しています。日本語はまだ難しいけど、少しでも成長してきたのを感じてすごく嬉しいです。これからもぜひ日本語、日本文化と日本独特の美術感覚を学び続けたいです。



ブラジル福岡県人会  
池尻 直美 カレン

九州大学大学院 薬学府

## 勉強のこと

今年、私は薬学を九州大学で勉強しています。大学は様々なコースの多くの学生がインターンシップを行う九州大学病院に隣接しています。

コース中は、濱瀬先生と古賀先生の指導のもとに研究者として働いているので、授業に参加しません。研究室は、研究、機器、実験やサンプル調製のための部屋として、いくつかの部屋に分かれています。

このクラスは15人の生徒で構成され、それぞれに独自の研究があります。今、私と2人の他の学生（タイと中国人）は外国人です。

この研究は、臨床研究の分野で広く使用されている物質を分離、同定、定量することができる HPLC (high-performance liquid

chromatographic) と呼ばれる装置の助けを借りて行われています。全員の研究は、日本で最も有名な化粧品ブランドの会社と協力して行われています。

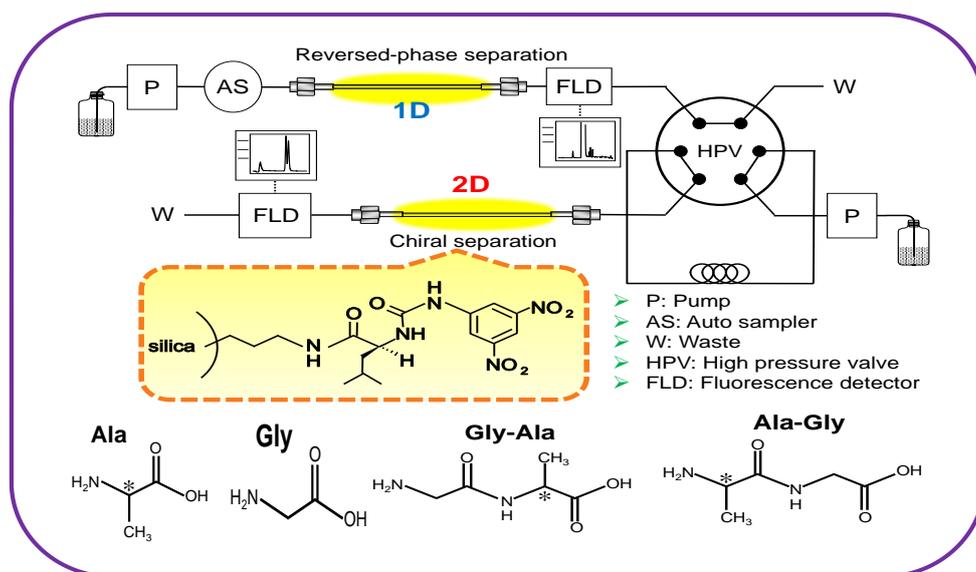
実験室の学生は、マウスなどのさまざまなタイプのサンプルを使用して、尿と脳の一部を調べます。

現時点では、タンパク質形成物質であるアミノ酸と2つのアミノ酸の合体であるジペプチドに関する研究を行っています。すべてのアミノ酸は、グリシン、DおよびLを除いて、2つの形態で見出すことができます。形態Dは、その構造形態に対してL体の鏡像異性体（鏡像異性体）と考えられ、これら2つの形態を分離するためには、それらを分離できる特異的かつ敏感な方法が必要です。だから、私のプロジェクトの目的は、ジペプチドグリシンとアラニンのエナンチオマーを分離することができる方法を開発することです。

最初の日から私は同僚の助けを借りて、HPLCを使用することを学びました。最初は少し難しかったです。しかし、少しずつ学ぶことができました。研究の方法は、エナンチオマーを分離するための重要な溶液であるメタノール、アセトニトリルおよびギ酸を含む。分離システムを作成するために、異なる濃度でいくつかの試験を実施することが必要でした。しかし、これまでのところ、この方法はエナンチオマー形態をほぼ完全に分離することができるので、試験はまだ行われています。私のプロジェクトでは、黒酢、血漿およびヒト尿のサンプルを使用しています。

多くの学生は、京都などの日本のいくつかの地域の会議や、中国などの他の国の会議でもプロジェクトを発表しています。7月に、大分県の一部の学生によるプレゼンテーションを見る機会がありました。10月には鹿児島県を訪問し、私の研究で分析している黒酢産業について学びました。そして11月16日から19日まで私は東京に行って私のプロジェクトを英語で発表します。私は本当にそれを楽しみにしています。

最初の学期には、箱崎キャンパスで日本語クラスを受けることができました。私はレッスンをとても楽しんで、多くのことを学びました。コースの期間中、私はアメリカ人とルーマニア人の多くの友達を作る機会を得ました。これまで私はここで多くのことを学ぶ機会を得ました。私は奨学金プログラムの終わりまでにもっと学ぶことができればうれしいです。私はここでやったこと、特に私を助けてくれた濱瀬先生と古賀先生にとっても感謝しています。私はまた、日本語の勉強を続け、日本語能力試験を受験するつもりです。



パラグアイ福岡県人会

山崎 亜希

中村学園大学 栄養科学部

## 勉強のこと

「パラグアイの平均寿命は?その死因は?最も多い病気は?」

初めましてのご挨拶前に雨のように降る質問、戸惑う私。最先端である日本、中村学園大学で教授や先生達が必ず聞くテーマ、そのようなことは母国では口にもしない話だったのでびっくりしました。2014年10月カトリック大学を卒業するのと同時に栄養士になれた私は、その後有りがたくも日系移住地ピラポ市の診療所で一年間勤めさせていただいて、今の留学生にいたっています。

大部正代先生の下、新たな学生生活が始まりました。「楽しくて分かりやすい授業」を中心に選んで下さり、調理実習・実習食品の加工と栄養・実験食品の安全性など、これらを理解するためにも関連する病態やライフステージに即した栄養科学を受けています。

また大部ゼミの一員として活動しています。麴を中心とした、甘酒スムージーの商品化に協力したり、塩麴を使った料理をしたりしています。毎月行われている横川クリニックか栄養クリニック料理教室での大量調理のスタッフとしても参加しています。バックステージではいつも決め手となるのが調理人同士の協力、各自が積極的に行動、そして限られた時間との勝負です。その状況の中でも至らない私を優しくサポートして下さいます。

前期では、食品の栄養特性や物性を覚えるのに 味噌、オレンジ漬け、ブルーベリーのジャム、梅酢、ソーセージ、かまぼこ、豆腐たくさんの食品を作り、自作の物を試食したり、さらに細菌検査を行ったりし、より分かりやすく覚えるために現場の工場へ行くこともありました。

学校以外では「栄養士大会・栄養改善学会」に出席しました。臨床栄養学や健康科学等の研究や実践を報告する管理栄養士達、そして特別講演で脳科学者の研究を聞くことが出来て光栄でした。何が素晴らしいかと言いますと脳機能と食事が繋がっていたのです。朝食の習慣を身につけていないと学力どころか脳の働き自体が悪い、すなわち頭が悪いって証明されていました。

「一汁三菜」って知ってますか?私は馴染みのなかった言葉の意味を知ることになりました。それは、千年以上前から伝統として受け継がれてる食事形式で

す。お膳に汁物、主菜、副菜と副々菜、旬の食材で作った物を盛り付け、それぞれが意味を持つ決まった位置に置かれています。

食文化の分野では、「フランス料理は香り(鼻)、中国料理は味(舌)、日本料理は目(盛り付け)で味わう」と国によって特徴が比較されてることを実践で理解しました。その中でもやはり見た目が美しく、お皿の上の華やかさを一気にアップさせる日本料理は素晴らしいです。患者に出す料理の一つひとつに気遣いとおもてなしの心があります。手間暇かけた飾り切り、煮崩れを防ぐ面取り、盛り付ける際には富士山のように山形で立体感を出す、大勢いる患者の一人ずつに対応する適切な料理を提供すること。

そして気が付けば月日は流れ、私の留学期間も残り少なくなっていました。悔いのないように時間を有効に使い、満喫して、新たな事を覚えていきたいと思えます。

何事にも優しく丁寧に指導して下さいる皆さんに出会えたことは、感謝の気持ちでいっぱいです。「一期一会」の偉大さをしみじみ感じて今を大事にしていきたいです。

ペルー福岡クラブ

松藤 福田 カルロス アウグスト

九州造形短期大学 造形芸術学科

## 大学の勉強

ペルーで私は産業デザインを勉強しました。その時から私はいろいろな会社で仕事をしました。しかし、いつもえをかくのが好きでした。だからイラストレーターになりたいと思っていました。イラストレーションの仕事をして、テレビゲームのコンセプトアートをして、ペルーの専門学校でイラストレーションを教えました。でも私は学ぶことがたくさんあったと思いました。だから日本に行くことを決定しました。

今年の四月から九州造形短期大学で勉強をはじめました。マンガとイラストレーションを勉強していました。でも日本語と茶道と日本画も勉強しました。留学生ですから日本文化もべんきょうしたい。四世ですから私のルーツを学びたいです。

8年まえペルーの大学をおわりました。今年私は大学に通いはじめました。気持ちいいです。勉強のことがすきです。とても面白いと思います。子供の時から私はイラストレーションを勉強したかったです。いまいいチャンスだと思います。日本のマンガとイラストレーションは素晴らしいです。

日本に行くまえに、私は自分のマンガを描きたいと思っていました。先月私は自分のマンガをかきました。嬉しかったです。大学の先生はマンガコンテストに参加するようと言いました。それは私のはじめの一步。先ずキャラクターデザインをしました。あとネームを書きました。それはマンガのレイアウトです。えんぴつだけで、マンガのコマのデザインをしました。先生はそのネームチェックをしました。それから私は訂正をして、インクでマンガを描きました。あとでマンガをスキャンして、パソコンでマンガの対話とスクリーンショットをしました。最後にプリントをしました。10月に毎日マンガを描きました。それはたくさんの仕事でしたが、いい経験でした。私はたくさんのことを学びましたが、まだまんぞくじゃありません。いま私は新しい自分のマンガを描きたい、たぶんプロレスリングの物語です。

今学期キャラクターデザインを勉強しています。とても面白いです。えを描くだけじゃありません。キャラクターの物語と特徴もつくります。いま私は花のキャラクターのデザインをしています。藤の花を選択しました。五月に河内藤

園へ行きました。その時から私は藤の花がすきです。それに私のなまえにはそのかんじがあります。

日本で勉強は少しずつ進みます。それはいいと思います。まず授業があります。それから練習をします。最後に全部学んだことを使います。ここで私はたくさんえを描きました、びっくりしました。そのおかげで私のえは前より良いと思います。ペルーに帰ったら私はその方法を教えたいです。

10月に私はとても忙しかったですから、プロレスのトレーニングに行くことはできなかったですが私はトレーニングに行きたい、いい経験でした。

最後に私は日本語を勉強していました。私は能力試験5を受けることを決めました。12月に試験がある。それは少し怖いですが私は頑張ります。私は先生にとっても感謝しています。

どうぞよろしく願いいたします。

在ポリビア福岡県人会

八田 生香

福岡医療専門学校

柔道整復科 / 鍼灸科

## 勉強のこと

私が行っている治療はこんなものでいいのか。

ポリビアで実施されているリハビリの方針は日本ではどちらかと言うと、柔道整復士に近い分野だということ。『その場にきた人の痛みを和らげる』そんな治療を行っていました。

電気を流し、超音波をあて、低周波で筋肉に働きかける。そう教わって疑いもせず、信じて歩いてきた道。そこに新たな可能性を感じこの研修を受けることにしました。

福岡医療専門学校は実技ができる環境がとても整っていて、知識、技術そして人間性を備えた先生方が集結し、「即戦力」となる人材の育成のために全力でサポートしてくれます。

術者として恥じないセラピストを育てるということが目的で、またその中でも身だしなみには厳しく指導されていて、他人への気づかいといった細かい部分も徹底していることに目を惹かれます。

入学して約7ヶ月が経ちました。最初のうちは必死で授業内容に耳を傾け、ノートをとるのもやっとでしたが、段々漢字や教科書にもなれてきて講義が受けやすく感じる今日この頃です。

実技の授業では、テーピングや包帯の巻き方などを教えてくれます。一度習ったことはあるが、実践した回数は少なく、多忙な毎日を過ごしていると記憶が上書き保存され忘れかけていたことがたくさんある事に気づかされます。

もう一度学生に戻り、一から勉強し直す事は山ほどあります。スペイン語だと知っているつもりでも日本語で聞くと初めましてと言わんばかりな感じになります。解剖学や筋肉の名前は難しくて一年生の子に教えてもらうことは多々あります。

自分の無知さを日々味わい、先生たちの指導のもと自分にとっての復習や新しいことを勉強させてもらっています。

こんな私を無条件で受け入れてくれるクラスの子達や、心配して気を使ってくれる先生方にとっても感謝しています。

リハビリをする上で、鍼灸は代替医療として用いられ、母国でも少しずつ知られるようになってきました。

元から興味はあったものの、針を刺すのも刺されるのも怖い。勇気たらずのそんな私が鍼灸科の授業も受けることになりました。

最初は練習台の上に、次は自分に、そして他人にと順序を追って実技の内容はさらにレベルを上げていきます。四肢から始まり腰や背中へと部位を進んでいきます。

へたくそな痛い針を患者役の人にうってしまった時があれば、じわ〜っと熱いお灸をすえられたりしたこともあります。感想やアドバイス、指摘など受けられるのは学生である特権であって、臨床の場に立つと誰も教えてくれないよと先生たちは言います。

今日という日は二度と来ない。そんな思いで学校へ行き、勉強して講義を聞いて、おしゃべりして。とても充実した研修生活を過ごしています。

楽しいことも、つらいことも、なんど刺しても刺さない針だって無駄なことなんて一つもないと私は思います。

今ここに居られることに感謝の気持ちでいっぱいです。